

中学部 第3学年 国語科学習指導案

## 1 単元名 「聞いてみよう 書いてみよう」

## 2 単元設定の理由

本グループは5名で構成されている。日常生活においては、会話は難しいが、簡単な言葉による指示が理解できる生徒や、簡単な会話でのコミュニケーションが可能な生徒達である。話を聞く時には傍で視線を向けるよう、また、注意が持続するよう支援が必要であることが多いが、興味のある出来事や、絵などを提示すると話を聞こうとする様子が見られる。文字を読んだり、書いたりすることに課題はあるが、学習態度は比較的落ち着いており、文字を読んだり書いたりする学習に集中して取り組むことができる。

これらの実態を踏まえ、本単元では、生徒が興味をもつ絵本を使用し、繰り返し読み聞かせを行うことで、その楽しさを味わいながら聞こうとする姿勢を育てたいと考えた。また、絵本について教師とやりとりする中で言葉や身振りで表現することに慣れたり、表現しようとしたりする態度を身に付けることができるのではないかと考えた。書く学習では、分かりやすく意欲的に学習に取り組むことができるよう、身近な人や物を取り上げることとした。さらに、身近な人物の名前は、日常生活の中で繰り返されるので理解が進みやすく、成就感を味わいながら学習できるのではないかと考えた。指導にあたっては、内容が分かりやすく、視覚的にもインパクトのある「にじいろのさかな」を取り上げ、生徒の様子を把握しながら読み聞かせることで、生徒が興味をもって聞くことができるようにしていきたい。また、授業の流れを固定化し、生徒が見通しをもって学習に取り組んだり、個別の課題を設定し、できるだけ自分で学習を進めたりすることができるよう支援していきたい。

以上のような学習で得た、聞く姿勢、表現する力、文字の理解などは、生徒のコミュニケーションの幅を広げ、日常生活を円滑に豊かにする一助となるのではないかと考え、本単元を設定した

指導者	指導者のねらい（授業の中でT-Tの役割の観点から）
T 1	生徒の様子を把握しながら、読み聞かせをし、「書いてみよう」では、A, B, Cが課題にスムーズに取り組み、目標に近付くことができるよう支援していく。
T 2	「聞いてみよう」では、T 1と連携し学習が円滑に行えるように主にD, Eの支援を行う。後半の「書いてみよう」ではD, Eの指導を行う。

### 3 単元の目標

- 絵本を見たり物語を聞いたりする活動を通して、教師の話しかけに応じたり、話を聞く姿勢を身に付けたりすることができる。
  - 自分の名前を漢字で書くことができる。
  - 身近な物の名前の文字カードと絵カードをマッチングすることができる。
  - 平仮名、片仮名、身近な物の名前を読んだり書いたりすることができる。

#### 4 本時と個別の指導計画の関連 ※卷末参照

## 5 指導計画 (24 時間扱い) (本時)

## 6 本時の指導

### (1) 全体目標

- 絵本に興味をもって見たり、聞いたりすることができる。
- 自分の名前を漢字で書いたり、なぞったりすることができる。
- 身近な人や物の名前を平仮名や片仮名で書いたり、選んだりすることができる。

### (2) 準備・資料

名前カード 大型絵本 絵カード ワークシート 音のひらがな本 パソコン 穴あけ用パンチ

### (3) 展開

時刻	学習内容・活動			手 だ て
3分	1 はじめのあいさつをする。 2 本時の学習内容を知る。			<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達を意識できるよう、号令をかける生徒の名前カードを提示し「だれですか」と問いかける。</li> <li>・黒板に注目するよう言葉を掛け、学習内容を板書する。注目がそれる生徒には、T2が黒板を見るよう言葉を掛けたり、指差したりして注目できるようにする。</li> </ul>
25分	3 「にじいろのさかな」の話を聞く。 (1) 物語を聞く。 (2) 物語について教師と話をする。			<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時まで読み聞かせをしていた本を想起するよう問いかけ、期待感をもって聞くことができるようする。</li> <li>・本に注目していない生徒には、名前を呼びかけたり、本を指差したりし、本に注目できるようする。</li> <li>・B, Cには登場した生き物について、Dには生き物の名前を、A, Eには「魚はどれ?」などの質問をすることで教師との受け答えができるようする。</li> </ul>
24分	4 個別に学習を行う。			<ul style="list-style-type: none"> <li>・「〇」の漢字で書きづらい部分は、教師が手を添えて一緒に書くことで、正しい漢字を書くことができるようする。</li> <li>・なぞりが速い時は、「あり」のキャラクターの後を追ってなぞるよう言葉を掛ける。</li> <li>・課題が終了したことを自分から伝えることができるよう「終わりました」のカードを裏返し、終了のサインとする。</li> <li>・マッチングが難しい時は、語頭のひらがなを提示する。ゆっくり書くよう言葉をかけ、上手に書くことができた時は賞賛し、意欲的に学習に取り組むができるようする。</li> </ul>
T 1	A	(1)名前の漢字を書く。  (〇) (2)パソコンを使ってなぞり書きをする。 (3)絵カードと平仮名のマッチングをする。 (4)絵カードの名前を視写する。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文字の大きさが揃うよう、マス目のワークシートを使用する。</li> <li>・写真カードを自分で選ぶことで、意欲的に課題に取り組むことができるようする。</li> <li>・声に出しながらひらがなカードを選ぶよう伝え、文字を抜かさず、正しい順番で並べることができるようする。</li> <li>・物の名前を正しく覚えることができるよう、一文字ずつ指差しながら読むよう伝える。</li> <li>・単語の字数と同じマスの数のワークシートを利用することで字数の違いに自分で気付くことができるようする。</li> </ul>
	C	(1)漢字で名前を書く。 (2)片仮名で物の名前を書いていたり読んだりする。 ○パソコンを使って書く		<ul style="list-style-type: none"> <li>・友達の声が気になり大声を出す時は、「優しく言おうね」と言葉を掛け、気持ちを落ち着けることができるようする。</li> <li>・枠の大きさを意識できるよう、枠を指でなぞってから書くよう促す。</li> </ul>

		く。 ○ワークシートに書く。	・最後に好きなキャラクターのワークシートをすることを伝え、意欲的に課題に取り組むことができるようする。 ・促音の書き方が違う時は、教師と一緒に発音し、小さく文字を確認してから書き直すよう促す。
T 2	D ・ E	(1)名前のはなぞり書きをする。  (2) 平仮名（五十音）を書く。 ○なぞり書き ○視写（Dのみ）  (3) 平仮名カードを見て、『あいうえ』のキーを押す。  (4) 物の名前を聞いて絵カードを取る。  (5) 平仮名カードを絵カードに合わせる。	※Eは(3)(1)(2)(4)の順に行う。 ・Dには「○」「◇」Eには「△」「■」「▽」の正しい書き順で書けるように、一画書くごとに鉛筆で始点に点を書いてたり、なぞってみせたりする。 ・正しい書き順で書けるように①, ②, ③を指差す。 ・手本を見ながら書くように話す。 ・文字を見つけられないときは、周辺を指さす。 ※『あいうえおのほん』はキーを押すと音が出る。 ・カードを取れない時は、平仮名カードを見せたり、絵カードを指差したりする。 ・文字を読んで渡し、絵カードに合わせられるようにする。
3分	5	まとめをする。（グループ別）  (1) ワークシートをファイルに綴じる。  (2) おわりのあいさつをする。	・生徒それぞれに本時の授業でがんばったことについて賞賛し、次時の授業へ意欲的に参加できるようする。 ・中心に合わせて穴を開けることができるよう、Aのワークシートに印をつけておく。 ・姿勢を正すように伝え、終わりが意識できるようサインを交えてあいさつする。

※「○」「◇」「△」「■」「▽」などは生徒の名前の漢字が入る。

(4) 活動配置図 ※省略

(5) 全体の評価

- 教師の話しかけに応じて絵本を指差したり、話したりすることができたか。
- 名前の漢字をなぞったり、枠の中に書いたりすることができたか。
- 身近な人や物の名前を平仮名や片仮名で書いたり、カードで選んだりすることができたか。

#### 4 本時と個別の指導計画の関連

名前 学年	個別の指導計画 との関連 (短期目標)	本単元の学習実態	本時の個別目標	関連する自立活動の区分・項目
A	・一画の平仮名を読んだり書いたりすることができる。	・「見て」と言葉を掛けたり、絵本を指差すことで、見たり聞いたりすることができる。 ・「ゆっくり」「丁寧に」の言葉掛けで簡単な平仮名のはなぞり書きや視写ができる。 ・改まった場面では話をするのに支援	・周囲の様子に気をとられず絵本を見たり、聞いたりすることができる。 ・「○」の漢字を書くことができる。 ・絵カードとひらがなを対応することができる。	人(1) コ(2)

		が必要だが、日常生活の中で会話をすることができる。		
B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の名前を漢字で書くことができる。</li> <li>・身近な人や物の名前を読んだり書いたりすることができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・絵本を見たり、聞いたりして大体の内容を理解することができる。</li> <li>・名前の「○」、「■」を書くことができる。</li> <li>・話したり書いたりする時に、単語の文字の順番が違ったり、文字を抜かすことがあるが、平仮名を読んだり書いたりすることはできる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・絵本の登場人物を指さしたり、「○○だね」と言いながら見たり、聞いたりすることができます。</li> <li>・漢字の大きさに気を付けて名前を書くことができる。</li> <li>・平仮名カードを並べ、単語を読んだり書いたりすることができます。</li> </ul>	コ (2) コ (3)
C	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身近にある物の名前を片仮名で書くことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・絵本を見たり、聞いたりして内容を理解することができる。</li> <li>・片仮名で書かれた物の名前を読んだり、片仮名の五十音表で確認しながら書いたりすることができる。</li> <li>・友達の声に敏感に反応し、「うるさい」と怒ることがある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・絵本に集中して見たり聞いたりし、質問に応じることができます。</li> <li>・大きさの異なる枠の中に名前を書くことができる。</li> <li>・身の回りの物の名前を片仮名で読んだり書いたりすることができます。</li> </ul>	コ (2) コ (3)
D	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身の回りの物の名前が分かる。</li> <li>・平仮名のなぞり書きができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・絵本を見たり、聞いたりして楽しむことができる。</li> <li>・身近な物や興味のある物の名前を言うことができる。</li> <li>・自分の名前を漢字で書くことができる。</li> <li>・平仮名、片仮名の簡単な単語を見て書き写すことができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・尋ねられた生き物の名前を答えたりしながら、見たり聞いたりすることができます。</li> <li>・身の回りの物の名前を聞いて、絵カードを取ることができます。</li> <li>・平仮名のなぞり書きができる。</li> </ul>	コ (2) コ (3) 環 (2)
E	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身の回りの物の名前が分かる。</li> <li>・自分の名前の漢字のなぞり書きができる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・絵本を見たり、聞いたりすることができます。</li> <li>・身近な物の名前が分かる。</li> <li>・名前の「◇」「▽」を正しい書き順でなぞり書きできる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・尋ねられた生き物を指差したりしながら見たり、聞いたりすることができます。</li> <li>・身の回りの物の絵カードに文字カードを対応させたり、名前を聞いて、絵カードを取ったりすることができます。</li> <li>・自分の名前の漢字のなぞり書きができる。</li> </ul>	コ (2) コ (3) 環 (2)

※ 「○」「◇」「△」「■」「▽」などは生徒の名前の漢字が入る。